

# 議会だより

ひだか

第180号

令和7年1月24日



やってみよう やさしいことばの キャッチボール



## 三十歳を祝う式典

町職員の給与条例を一部改正	補正予算・条例	2～3
災害の備え	一般質問	4～5
教育・子育て支援の先進地を視察	委員会レポート	6～8

# 12月定例会

令和6年第4回定例会は12月10日から18日までの9日間の会期で開催した。

今定例会では、令和6年度補正予算・条例など議案12件、専決1件、発議1件が提案され、慎重審議の結果、原案の通り可決した。

## 令和6年度一般会計補正予算

既定の予算額に3,680万4千円を追加し、総額58億1,911万6千円とする。

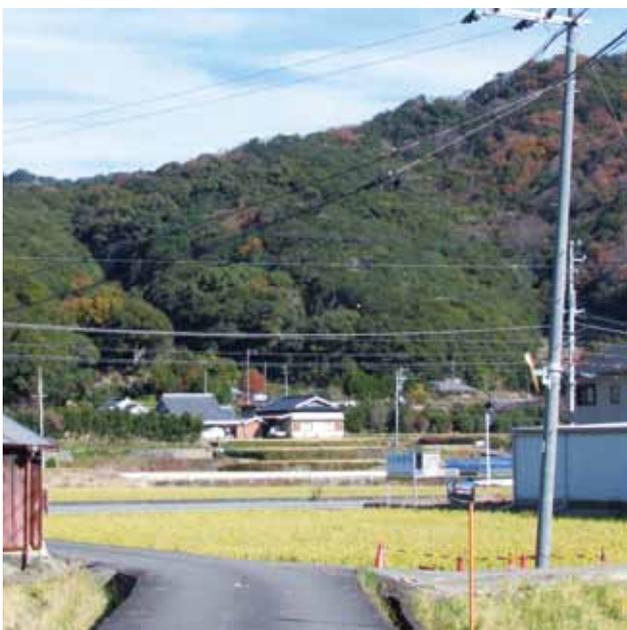
### － 主な内容（歳出）－

- ・ 農地耕作条件改善事業（谷口・小池地区） 1,120万円
- ・ 対外競技活動費補助金 80万3千円
- ・ 障害者総合相談センター相談業務消費税等相当額助成金 293万1千円

### 町道改良事業費

**問** 町道改良事業費（御所ノ前線・谷口中志賀線）の増減内訳について説明を。

**産業建設課長** 用地購入費268万6千円が不要となったため、245万円を電柱の移転費用に充て、残りの23万6千円を工事費として、工事の進捗を進めたい。



移設された電柱（中志賀）

### 障害者総合相談センター

**問** 障害者総合相談センターの相談業務消費税等相当額の助成について説明を。

**子育て福祉健康課長** これまで障害者相談支援事業は消費税が非課税となる社会福祉事業であるものとして、委託料に消費税相当額を含んでいなかった。

しかし、国からの通知及び説明で、社会福祉事業に該当しないことが判明した。

委託料に消費税相当額を加えた金額を受託事業者を支払う必要があること、過去の消費税についても修正申告が必要であること、また受託事業者の負担にならないようにとの国からの説明があった。

これを受けて、令和5年度分の申告及び過年度分については修正申告がなされ、消費税額と延滞税が確定したので、消費税等相当額を委託者である1市5町で負担することとし、消費税等相当額助成金として補正した。

## 対外競技活動費補助金

**問** 詳細説明を。

**教育課長** 当初予算200万円を計上していたが、中学校のクラブ活動で、今年度の夏季大会でテニス部とバレー部が近畿大会へ、テニス部はそのあと全国大会へ出場した。

秋の新人戦でもテニス部、バレー部が近畿大会へ出場するなど予算を超過したので、それらの分も合わせて補正予算を計上した。



テニス部



バレー部

## 下水道事業会計補正予算

### 内原東処理区監視システム更新工事

**問** システム更新工事について説明を。

**上下水道課長** 処理場1カ所、中継ポンプ所27カ所分の監視システムの更新工事をするもの。

令和6年9月に監視システムの親機が故障し、各中継ポンプからの通報を受信できなくなった。耐用年数が過ぎていて、修理が不可能なため、システムの更新をするもの。

## 教育委員会委員



尾崎 雅彦 氏  
(志賀)

教育委員会委員として任命したいと議会に同意を求められ、全員一致で同意をした。

## 職員の給与条例の一部改正

人事院勧告に基づき、俸給月額と、期末勤勉手当を引き上げるもの

**問** 予算面ではどうなっているか。

**総務課長** 予算では、一般職及び暫定再任用職員89名、給料で1,183万4千円、期末勤勉手当で742万4千円、会計年度任用職員29名、給料・報酬で116万6千円、期末勤勉手当で57万2千円の増額となる予定である。

### 損害賠償の額を定めることについて

町内在住の未成年者がトレーニングのためランニング中、道路横断水路のグレーチングのずれによる隙間に足を取られ転倒し、左下腿を負傷したもの。過失割合80%に当たる、10万6,435円を全額保険により支払う。



にしおか かなこ  
西岡 佳奈子 議員

## 災害の備え、分散保管を 町長 今後 分散備蓄をすすめたい

**西岡** 12月4日、5日に能登半島被災地へ支援と調査活動に行った。いまだ復興には程遠い状況であった。

今回の訪問で改めて感じたのは、被災した時には道路網が寸断されるということである。山腹の崩壊や道路の崩落などに加え、橋の取り合わせ部分で大きな段差ができ、通れなくなるところも多い。

災害協定に頼りすぎず必要な物資を町として備えておくことや、備蓄の分散保管が必要ではないか。

**町長** 物資の分散備蓄は重要だと思う。今後、できる限り分散備蓄を進めていきたい。



復興にはほど遠い被災地の現状（輪島市）

## 新白馬風力発電に 厳しい知事意見

**西岡** 新白馬風力発電事業について、環境影響評価法に基づく知事意見が出されている。

「脱炭素社会に貢献というのが、地域の環境を改変してまで事業実施する理由として理解できない」「西側部分（日高町・御坊市のエリア）の開発は、重大な環境影響が発生する可能性がある」「事業規模を縮小することも視野に、計画全体の見直しを進めること」とされている。どう受け止めているか。

**町長** 厳しい意見であったと受け止めている。

**西岡** 町長は、調査結果に基づき慎重に対応したいと答弁されてきた。町有地の貸与についての判断も必要となる。調査の終了や、判断の時期はいつ頃か。

**企画まちづくり課長** 事業者のスケジュール表では、令和8年秋頃から風車位置など決定予定となっている。

**西岡** 位置が決定された時点で判断か。

**町長** 対象となる土地所有者の意見も聞いたうえで判断していきたい。

**西岡** 金銭的なメリットは考慮するのか。

**町長** 現時点で金銭的なことは聞いていない。

**西岡** 町として推進して行くべきではないと思うが、改めて町長の考えを問う。

**町長** 町として推進の立場にはない。しかし、事業者に対して現時点でどうこう言える立場にない。

— 他の一般質問 —

○ 投票所の改善、投票所への送迎制度を

みやもと まさふみ  
宮本 雅文 議員

# 災害時の井戸水利用

## 町長 協力井戸の調査をはじめ



**宮本** 能登の現状を見る限り、水の復興は遅い。ペットボトルの備蓄や、水道タンクの利用など色々と対策をしているが、災害時には想定外が起こり得る。

その事を考えれば井戸水の利用も必要ではないか。水源の選択肢は多ければ多いほど安心である。飲料水、生活用水としての利用が可能かどうか早急に町内の井戸水の調査をしてはどうか。

**町長** 井戸水の利用については、飲料水としての活用は考えていないが、生活用水としての利用は検討しており、来年度、協力井戸制度に協力いただける方を調査したいと考えている。

**宮本** 地区から推薦して頂ければ良いのではないか。

**町長** 町としては各区長にお願いして、早速していきたい。

**宮本** 先日、御坊保健所から小浦区に井戸水の調査に来た。その検査結果はどうだったか。

**総務課長** 検査項目としては一般細菌ほか10項目を調査しており、この箇所については全て適合という結果であった。

**宮本** 飲料水としては利用しないということであるが、保健所の判断はどうだったのか。

**町長** 保健所では飲料水として使えるかどうか、という判断はしていない。

**宮本** 飲料水として適していると保健所が判



現在も利用されている井戸

断した場合でも、町は飲料水として適用しないということか。

**町長** 保健所が行っているこの検査の第1の目的は、水質汚濁防止法に基づく地下水の常時監視のため、環境面から水質検査を実施しているものである。その際、災害時に生活用水として活用できる井戸がないかも併せて、現在実施していると聞いている。

**宮本** 何百年も井戸水は使っている。小浦の場合、検査結果は2回とも良好ということであった。

自己責任において飲料水として利用してもよいのではないか。

**町長** 県の水質検査並びに町も検査して結果が良かったら、それを活用していきたいと考えている。

# 委員会レポート

## 産業教育常任委員会

### 公営塾の運営 わけ 岡山県和気町

委員会は、11月27日に岡山県和気町で取り組んでいる、「公営塾の運営について」行政視察をおこなった。

公営塾は、平成27年に実施した町民アンケートで「教育や保育の環境充実」を求める声が多数あったことから、和気町においては英語力に長けた人材を育てようと、町内の小学5年生から中学生を対象に、町内2カ所で英語教育の公営塾を平成28年から開設した。現在は町内にある閑谷（しずたに）高校の学生にまで範囲を拡げて取り組んでいる。

指導の内容は民業圧迫とならないよう、英会話レッスン、英語検定受験のための学習としている。なお、授業料は無料である。

運営スタッフは地域おこし協力隊がメインで、包括連携協定を結んでいる県内の大学生にも講師をお願いしている。



また、学校教育では文部科学省から特例校指定を受け、独自の英語教育を実施している。

A L T（外国語指導助手）は各小中学校に一人ずつ配置している他、三つの認定こども園にも併せて一人を配置している。

学校には行き辛いけれども「公営塾」には通いやすいという子どももいて、学校と連携を密にしているとの説明を受けたときは、単なる塾ではなく、子どもたちの様子を学校側と情報共有する良い取り組みだと感じた。



公営塾の授業やイベント風景  
(和気町提供)

## 中学校部活動の地域移行 兵庫県播磨町

兵庫県播磨町では「中学校部活動の地域移行について」播磨町教育委員会から説明を受けた。

学校には希望する部が無い、専門的指導が受けられない、などの理由から入部者が減少した。また、教員の負担も大きく、活動の質や量の確保の点から、継続が困難な状況が深刻化していた。

これらを背景に、部活動を学校から地域に移行し、地域の大人と子どもたちが一緒になって取り組む新しいスタイルを確立している。

地域移行に際しては、その受け皿を「NPO法人スポーツクラブ21はりま」に選定し、多くの部活動が地域へと移行している。

将来的には、すべての部活動を地域移行したいと教育委員会では検討されている。

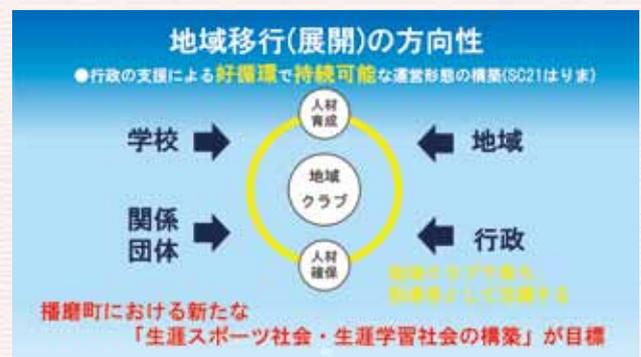
地域移行することによって部活動の選択肢が増え、運動部だけではなく、文化、芸術、e-sportsなど新たな分野の部活動が創設されている。

「持続可能な部活動のあり方」、「教員の働き方改革」が取りざたされている今、町が地

域移行コーディネーターを配置し、町をあげて取り組む姿勢には熱意を感じた。

当町においても教育委員会が主導となり協議会を立ち上げるなど、前向きな取り組みを期待したいものである。

この行政視察を終え、私たちの住む日高町においても、将来を担う子どもたちのため「さらなる教育環境の充実」を町当局に要望した。



地域移行のイメージ

### 部活動にない種目のニーズに対応

- ・ハンドボール
- ・少林寺拳法
- ・ジャズダンス
- ・体操 ・水泳 ・e-スポーツ
- ・ボランティア
- ・理科(Science) ・茶道
- ・生け花 ・書道 ・将棋
- ・三味線 ・獅子舞 (R6~)

★ アンケート結果などニーズに対応



文化・芸術など、従来の部活動には無かった種目も実施している

# 委員会レポート

## 総務福祉常任委員会

### 子育て支援の町 岡山県奈義町

委員会は11月26日岡山県奈義町を行政視察し、町担当者より「子育て支援」について説明を受けた。令和元年に合計特殊出生率2.95人を記録し、当時の岸田総理がなぎチャイルドホームを視察し、「子ども対策対話」をした事から一躍有名になった町である。

令和元年に合計特殊出生率2.95人を記録したが現状は人口減少が続いており、少子化対策は子育て世代の問題だけでなく最大の高齢者福祉であるとの観点から事業を実施している。

対策の一部を紹介すると「こども園、小中学校の給食無償化」、「在宅育児をする保護者に毎月1万5千円の支援金の支給」、「高校生の就学支援として年額24万円の支給」、「大学生に就学育英金を支援し、卒業後に町に定住すれば全額返済免除」などを実施している。



なぎチャイルドホーム

精神的な支援としては、町民同士で支えあう子育てサポート制度「なぎチャイルドホーム」がある。

ここは、保育士と親が協力し保育する活動や交流の場にもなっていて、子どもの成長に感激する保護者もいるとのことであった。

町内には働く場が少ない中、「子育て応援宣言」をする事により、行政が町民に対し子育てへの「安心感」、「心強さ」を約束しているとのことであった。

今後、執行部においては、先進的な地域の調査・研究も進めながら、子育て世代のニーズに合った新たな施策を検討することを要望する。

### 編集後記

新年あけましておめでとうございます。

昨年12月、能登半島被災地へ支援と調査活動に赴きました。手つかずの崩れた家屋やブルーシートのかかった家屋、住宅があったであろう更地、各所にあるがれきの山、崩落した山肌や道路、積み上げられた土のうなど、復興には程遠い状況でした。被災から1年、「政治の貧困」の現状を変えなければと感じました。新しい年が、希望ある年になることを願います。

西岡 佳奈子

#### \* 合計特殊出生率

1人の女性が生涯に産む子ども数の平均。

令和5年度の合計特殊出生率は、国が1.20人、和歌山県が1.19人、日高町が1.59人である。